

2024_0213「オーロラとアンドロメダ銀河（写真）」日々の理科 3477号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

2004年にスウェーデン北部の北極圏の駅長さんに頼み込んで設置したオーロラカメラは、約20年間稼働を続けています。こここのところ太陽黒点の活動が活発で、連日明るいオーロラを観測しています。

オーロラカメラには、オーロラはもちろん、恒星、惑星、月、太陽、人工衛星なども写ります。比較的明るい星雲や星団、それに銀河系外の銀河も写ることもあります。今回はオーロラの上にアンドロメダ銀河（M31銀河）が写っていました。写真の左に丸い看板（駅のホームに設置された停車を指示する表示器）の真上にある、やや縦長の光芒がアンドロメダ銀河です。

オーロラは観測地（地上）からせいぜい400km程度、それに対しアンドロメダ銀河は250万光年の彼方です。地球と宇宙の境目の「宇宙の渚」に実体があるオーロラと、虚空の深宇宙にあるアンドロメダ銀河、それに地上の風景が一緒に写っているこの写真に、私は実に不思議な「安心感」のようなものを覚えました。

（2024年2月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡ポルユス駅／東京から遠隔観測）

